

東京都小学校国語教育研究会研究主題

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習
—学びを通して身に付けた言葉の力を日常生活で生かそうとする—

書くこと部 研究主題

書くことのよさを実感できる単元づくりを目指して

第3学年国語科学習指導案

単元名 ○○小の給食じまん

～交流校の友達に自慢の給食を紹介する文章を書こう～

学習材名（開発単元のため、学習材なし）

第1会場 品川区立大井第一小学校 日時：令和8年2月20日(金)5校時 児童：品川区立大井第一小学校 第3学年松組 32名 担任：品川区立大井第一小学校 教諭 小森 優 指導者：清瀬市立芝山小学校 教諭 船倉 大輔	第2会場 台東区立松葉小学校 日時：令和8年2月20日(金)5校時 児童：台東区立松葉小学校 第3学年1組 28名 担任：台東区立松葉小学校 教諭 楠木 杏奈 指導者：日野市立日野第七小学校 指導教諭 市川 裕佳子
---	---

1 単元の目標

- 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。
〔知識及び技能〕(2)ア
- 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくって、文章の構成を考えている。
〔思考力・判断力・表現力等〕B(1)イ
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

2 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	①「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくって、文章の構成を考えている。(B(1)イ)	①進んで、考えとそれを支える理由や事例、自分が考える自慢の給食献立を伝えるために、段落相互の関係に注意して文章の構成を考え、学習の見通しをもって、紹介する文章を書こうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

・第1会場

本学級の児童は、これまでの学習により文章を「始め－中－終わり」で構成する意識はもっている。また、日記や学習感想で出来事や気持ちなどを2文程度で簡単に書くことや、書き上げたものを読み合う交流には、進んで取り組む様子が見られる。しかし、伝えたいことを中心を決めて内容のまとまりごとに段落をつくることや、意図をもって段落の順序を考えることについては、取り組み進度も含めて個人差が見られる。

・第2会場

本学級の児童は、書くことにおいて、地域のおすすめの場所を紹介する学習をしている。その学習において、意欲的に取材をし、伝えたいことを明確にして紹介する文章を書いた。また、考えとそれを支える理由の関係を明確にして書くことも意識してきた。しかし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落同士の関係に気を付けたりして文章構成を考えることには個人差が見られる。

以上の実態から、本分科会では児童が構成のよさや効果を実感できるほど十分に、説明的な文章を書く経験を積み重ねていないことも一因として挙げられると考えた。そうした実態に個人差も考慮すると、次の2点の思考過程を検討する必要があると考えた。

A 指導事項アのうち、情報の収集、内容の検討における低学年から中学年への接続

B 書くことの過程におけるア内容の検討とイ構成の検討の接続

A 指導事項アのうち、情報の収集、内容の検討における低学年から中学年への接続

学年	第1学年及び第2学年		第3学年及び第4学年
指導事項 ア	経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。	⇒ ⇒ ⇒	相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。
説明	書くために必要な事柄を思い出したり想像したりして（中略）書き出すとともに書き出した事柄を見て、書こうとする題材に必要な事柄かどうかを確かめることが重要である。書こうとする題材に必要なかどうかを判断することを通して、伝えたいことを明確にする（抜粋）	レ ベル ア ッ プ	集めた材料を、共通点や相違点に着目しながら比べたり、共通する性質に基づいて分けたりして、伝えたいことが明確になるように書く材料を整理することである。例えば、同じような材料を比較して、どちらが自分の書きたい事柄に合っているかを考えたり、読み手が理解しやすいように、事柄ごとに材料を分類したりすることが考えられる。こうした整理を通して、伝えたいことを明確にする（抜粋）

B 書くことの過程におけるア内容の検討とイ構成の検討の接続

学習過程	ア内容の検討		イ構成の検討
指導事項	相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。	⇒ ⇒ ⇒	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。
説明	集めた材料を、共通点や相違点に着目しながら比べたり、共通する性質に基づいて分けたりして、伝えたいことが明確になるように書く材料を整理することである。例えば、同じような材料を比較して、どちらが自分の書きたい事柄に合っているかを考えたり、読み手が理解しやすいように、事柄ごとに材料を分類したりすることが考えられる。こうした整理を通して、伝えたいことを明確にすることが重要である。（抜粋）	似 て い る 思 考	書く内容の中心を明確にするとは、文章の構成を考えるに当たり、書こうとしている材料の中から、中心に述べたいことを一つに絞ることである。このことによって、中心となる事柄や、それに関わる他の書きたい事柄が明らかになる。それを基に内容のまとまりで段落をつくるのである。（抜粋）

そこで、「書くこと」の情報の収集、内容の検討「集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること」、そして構成の検討「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること」の過程に重点を置いた学習を構想した。

(2) 学習材について（学習材観）

本学習材は、自校の自慢したい給食献立を、他校の児童に紹介するために書く文章である。

前項で述べた児童の実態とそこから見いだした検討課題2点を受けて、次の様な学習材を開発した。

本学習材を使用した単元では、児童は、自分が題材にした献立を、選んだ材料を軸としながら書き進める。まず、自校の自慢したい給食は何か、自慢したい事柄は何かを考える。その後、特に自慢だと思ふ献立や情報から紹介したい献立を決める「題材の設定」では、ウェビングを用いて行う。次に、「情報の収集」を行うために、題材に関する情報を付箋メモに書きためていく。ここでは低学年で学んだ「内容の検討」も意識して、必要な情報が集まっているかの確認ができるであろう。そして、同じような材料はどれかを整理・分類する「内容の検討」を、小見出し付きの枠を用いて行う。この活動は、次の「構成の検討」段階における書く内容の中心を明確にする思考過程と重なる部分があるが、ここでは学習指導要領の解説にある通り「どちらが自分の書きたい事柄に合っているかを考えたり、読み手が理解しやすいように、事柄ごとに材料を分類したりする」ことに重点を置いている。それを経て、児童は、どの材料を中心にしたいかを見付けやすくなり、その枠の中でまとまりを作ることができる。そうした内容の検討を経て作った段落を構成表に当てはめていく時に、児童は、どの段落が特に自慢として伝えたいまとまりなのかを考える。そうすることで、書き手である児童は、段落同士を比較した上で選んだという明確な理由をもつとともに、段落の相互関係についても考えが及ぶであろう。

中学年における「構成の検討」については、小学校学習指導要領解説国語編において、「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること」と示されている。中学年の書くことの目標と低学年で学んできた「内容の検討」と「構成の検討」をつなぐ学習を設定することで、児童が感じている難しさや理解のしづらさをなだらかにするのが本単元構想の端緒である。

本学習材では、児童が自慢したい献立を紹介するため、題材を選んだわけを理由と捉えて、それを軸に集めた自分の経験や調べたり、対話したりして得た情報を、具、味、人気、工夫、作り方、食感等の観点ごとに整理したり、分類したりする。その中から、書いて知らせたい事柄を読み手に伝わるようにまとめ、どうしてその順序にしたいのかを考えて構成する。つまり「伝えたいことや内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくる」必然性が生じると捉えた。

児童は、自分が食べた給食の思い出、友達との交流で話したこと、給食だよりや献立の解説等、多様な情報源から題材に沿って集めた材料を書き進める過程で、自慢したい理由や思いなどの考えが明確になるであろう。そして、それらの考えを支える具体的な事柄としてどれを用いるとよいか比較・分類をして情報を選択し、「中」で1番伝えたい情報を中心にまとまりをつくる。検討する中で段落相互の関係を考えて構成する姿を期待する。

(3) 単元について（単元観）

本単元において児童は、自分の考えを読み手に分かりやすく伝えるために、内容のまとまりごとに段落をつくり、伝えたいことを見付けて文章を構成することを目指す。そこで、誰もが共通に理解でき、書く内容を整理しながら順序立てて表現する力の育成を図るために、身近な題材（給食）を扱うこととした。

単元展開としては、第1時に児童はこれまでに食べた給食について振り返る。献立表や給食の写真などの資料や、生活班の児童との対話を通して自分が紹介したい給食献立の自慢ポイントの情報を収集し、紹介したいわけを明らかにする。その後、第5時の共有までは各自の学習ペースや取り組みたい書くことの段階に応じて書き進められるように、児童の必要に応じて柔軟な学習過程とする。また、対話的な学習活動における学びを重視する。必要な事柄かどうかを確かめて情報を選ぶ段階、中の順序を考える段階でも、ペア児童と対話しながら書き進める。対話の中でイメージを言語として表現することで、判断をしたり、思考が深まったりすることを期待する。さらに、取り組み方や観点を確認した上で自由に交流する機会も取り入れる。共に書き進めてきたペア児童とは異なり、初めて交流する相手からの質問に答えたり、自分からまとまりの内容や順序の理由を説明したりすることで、書き手の児童は自分の書いた内容や考えを問いただすことができ、伝えたいことが一層明確になるであろうと考えた。

さらに、単元のゴールを、交流校児童に自慢の給食献立を紹介することと設定した。相手校児童とは、学習や行事、校舎や休み時間の過ごし方など学校の様子を紹介し合う交流を行っている。その交流のトピックスとして給食を取り上げ、献立の中から自分にとって特別なものを選んで紹介をする。こうした相手や目的の設定は、他校児童と交流する楽しさを味わいながら書き進めることができるという意欲の向上のほか、紹介後の感

想交流があることで読み手にどのように伝わったのかを直接知ることができるよさもある。書いたものを実際に読んでもらったり、反応を得ることができたりする実の場が設定された単元での学びにより、児童にとっての学習が授業内や教室内での出来事として切り取られたものではなく、自分の書いた文章のよさや課題を次の学習や今後の生活へ生かされていくものとする。

4 研究主題に迫るために

(1) 「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる。

「言葉による見方・考え方」を働かせる児童の姿

中学年分科会では本単元における「言葉による見方・考え方」を次のように考えた。

まず、「言葉による見方」は、書き手の児童が、自分が題材に設定した献立選んだ理由を支える関連情報を収集し、内容や構成を検討する際に働くと思えた。これは、必要な事柄を選ぶことや順序を考える際に、書くこととする題材に対してどのように関連する情報かを、言葉がもつ意味や働きや使い方などに着目して捉えるからである。また、「言葉による考え方」は、それらの事柄を自慢の理由と照らして捉えたり、問い直したりすることとした。

以上2点から、本分科会では、選んだ献立を自慢したいわけを理由とした。また、書いて伝えるのに必要な事柄の正誤や適否など、〈自分の経験〉や〈調べて分かった・対話によって得た情報〉を、材料、味、人気、工夫、作り方、食感等の項目ごとに整理や分類をしたり、選んでまとまりを作ったり、観点に照らして順序を決めたりする姿を、本単元における「言葉による見方・考え方」を働かせている児童の姿であるとする。

本単元における「言葉による見方・考え方」を働かせるための方策

前述の姿が見られるように、本分科会で提案する主な方策は次の通りである。

①意欲の醸成や言語活動との自然な出会いに繋げる単元前の取り組み〈〇次〉

掲示物や活動によって、既習内容や単元に関連する出来事を想起しやすくする。これにより、児童は、学習問題や自己の課題をより抵抗なく、明確に捉えることができると考える。

例えば、好きな食べ物のクイズやスピーチで給食への関心を高め、献立係がいただきますの時に「今日の献立」を読み上げて、食材や献立についての情報に触れることは、題材との出会いを自然なものにするであろう。特に、他校の児童との学校紹介交流は、交流校の児童に自慢の給食献立を伝えたいという本単元での文章を書く相手や目的意識を無理なく設定できるだけでなく、相手校の自慢の給食献立は何かを知りたいという興味・関心を高めることが予想される。さらに、題材を決める際に学校ならではの情報を伝えたいと考えて、地域や学校独自の特色にまで意識を働かせる児童も想定される。

②思考を促す学習材

児童が、学習活動の具体的なイメージがもてるように、教師と話し合いながら構成表見本をつくる。また、教師から提示する文例や構成表例などは、児童の思考が固定化されないよう、複数提示する。また、児童が自分から解決方法を見付けるように、構成表例を児童と話し合いながらつくり、ねらいを意識した学習活動への具体的なイメージをもたせる。

③思考の流れと必要に応じた柔軟な学習過程と進捗表

児童の思考と学びを促すために、必要に応じた柔軟な学習過程を想定する。また、それぞれの学習過程を児童本人、周囲の他児童、教師が把握できるように、進捗表を掲示する。自分が何に取り組んでいるのか、次にすべきことは何かが分かるように、進捗表にネームプレートを貼って確かめたり、交流できそうな児童を見付けたりさせる。教師は、児童が自ら学びを進めていけるよう、座席表型支援簿で進捗状況を確認しながら評価をして、指導や支援に生かす。

④必然性と必要に応じた交流

書き進める過程で、「友達に聞いてみたい。」「他の人はどうしているか知りたい。」といった児童の必要に応じた交流を設定する。その際、選材や構成の意図が明確になるように、交流の観点を示す。また、他の児童の構成表を自由に見学してもよいことを伝える。

⑤単元での学びに対する充実感や実感のある自己評価をねらう実の場

でき上がった紹介文を1冊にまとめ、他校の児童に読んでもらう。単元で身に付けた力を活かし、廊下掲示板に給食紹介コーナーを設置する。

(2) 児童が(本単元において)身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める。

本分科会では、児童が本単元において身に付けたい力を意識し、自ら学びを進めるに関して、次のように考えた。

書き手の児童が、「これが〇〇小の給食で一番自慢の献立だ。」と交流校の児童へ伝えるために選んだ1つの献立について、必要な情報はどれかを検討するために整理したり、どのような事柄を選んで段落を作り、どの順序で組み立てるかを考えたりする思考が促されている姿。

これには、目的に関する情報を幅広く集められる環境設定が必要となる。そこで、次の4点を工夫する。

- ① 経験…①学級全体での対話。自分達がこれまでに食べた給食について話し合い、ウェビング・マップで表しながら、関連する事実や気持ちなどの事柄を思い出す。②少人数での対話。3～4人のグループになり、食材・味・人気・行事などの項目で、給食をテーマにした座談会形式のおしゃべりをして、情報収集を行う。
- ② 画像資料…係が実施している給食クイズや献立の記録写真を用いる。
- ③ 文字資料…ファイリングしておいた給食だよりなどの文字情報資料を見る。
- ④ 食に関する情報…栄養士にインタビューをしたり、給食掲示板の情報を見たりする。

(3) 学習活動(言語活動)において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ他者と関わり協働する中で、新たな考えをもつ。

本分科会では、児童が自らの考えをもち、多様な考えをもつ他者と関わり、協働する中で、新たな考えをもつという国語科の学習におけるよさを実現するために、次のように考えた。それは、大きく2点ある。1点目は、書くことの過程においての対話的な学びを重視したこと。2点目は、単元のゴールに交流校の児童へ自慢の給食献立を紹介する設定をしたことである。

まず、本単元では、情報の収集や内容の検討、構成の検討をしながら考えを明確にしていく過程に、他児童との交流を2種類設定した。これらは、書き進める過程や児童の必要に応じて対話できるように考えた。

① 伴走者として文章を書き進める際の自己内対話を支える固定ペア

ペアの児童と対話をしながら書くことは、書き手児童が必要な事柄かどうかを確かめて情報を選ぶ段階や、中の部分の順序を考える段階が想定される。対話を通して新たに気づきを得たり、問い直しによって確認ができたりするであろう。また、自分の書きたいことを知っている相手であるとの安心感を得ることもできるであろう。

② 第3者として意見や質問をし合う自由交流

構成以降は、交流コーナーで必要に応じて自由に交流できるようにしておく。自慢の内容や順序の理由を知らない相手児童には、改めて説明したり、質問をされたりすることが想定される。書き手の児童は、自分の書いた内容や考えを問い直すことができ、伝えたいことがさらに明確になるであろう。

次に、相手校児童とは、学習や行事、校舎や休み時間の過ごし方など学校の様子を紹介し合う交流を行っている。その交流のトピックスとして給食を取り上げ、献立の中から自分にとって特別なものを選んで紹介をする。こうした相手や目的の設定は、他校児童と交流する楽しさを味わいながら書き進めることができるという意欲向上のほか、紹介後の感想交流があることで読み手にどのように伝わったのかを直接知ることができるよさもある。書いたものを実際に読んでもらったり、反応を得ることができたりする実の場が設定された単元での学びにより、児童にとってはこの学習が授業内や教室での出来事として切り取られたものではなく、自分の書いた文章のよさや課題を次の学習や今後の生活へとつないでいくものとなる。

また、単元構成、言語活動の工夫としては、主に3点が挙げられる。

- ① 給食や日常生活といった、児童の生活全体を学習の場として捉えていること。これにより、児童の実生活に根差した学びを目指す。
- ② 国語科、他教科、帯時間などのカリキュラムマネジメントが可能である。各学校や学年の状況や、教師の願いや得意分野など、指導者側の実態と個性に応じた指導計画を柔軟に組むことが可能であると考えられる。
- ③ 実の場に、交流校の児童への学校紹介の一環として「うちの学校の自慢給食はこれです。」という場を設定することは、第3学年の児童がわくわくしながら取り組めるであろう、相手と目的となっていること。

教師主導ではなく、児童主体の計画と対話を生かすこと、そして、予め組まれた指導計画を基にしながらも、児童や教師・学校の状況に応じて柔軟に単元を組むことを目指した。

(4) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

本分科会では、この単元を通して獲得する言葉の力とは何かについてと、それを活用できる日常生活について、次のように考えた。

この単元を通して獲得する言葉の力とは、書く内容の中心を明確にして内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えられることである。

また、主に次の2点が日常生活において活用されている場面が、豊かな言語生活であると想定する。

- ①「どのように書くと、読み手に考えが伝わるかな。」という思いをもち、読み手を意識した文章を書くことである。これにより、書いた文章の先にいる読み手を想像しながら、言葉の意味や働き、使い方等を吟味したり、工夫したりすることが自覚的に行われていることである。
- ②「自分が伝えたいのは、こういうことだ。」という、自己への認識と理解が、書くことを通して深まるということである。これは、国語科の範囲に留まらず、児童の日常生活にも関わることであろうと捉えている。

児童にとって、この学習が授業内や教室内での出来事として切り取られたものではなく、自分の書いた文章のよさや課題を次の学習や今後の実生活へと繋がっていくことを期待する。

5 単元計画（全5時間）

過程(次)	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
○次				
		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 好きな食べ物クイズやスピーチで給食への関心を高める。 ◇ 献立係がいただきますの時に給食便りを読み上げて、食材や献立についての情報を知る。 ◇ 他校の児童と、学校紹介などの交流をする。 ◇ 1行日記に取り組み、文や文章を書き慣れる経験を積む。 		
第一次 題材の設定	1	<p>1 単元の課題設定 他校の児童との交流を振り返り、自慢の給食を紹介することを課題として計画を立て、学習の見通しをもつ。</p> <p>2 題材の設定 交流校の児童へ伝えたい自慢の献立を選ぶ。</p> <p>3 取材方法の確認 情報収集の仕方を確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決への必然性、意欲をもたせるために、交流校と紹介し合ってきた事柄や内容を振り返らせる。 ○学習活動や単元のゴールへのイメージがもてるように、文例を提示する。 ○題材に関連する事柄を幅広く想起できるように、ウェビング・マップを活用させる。 	<p>〔主体的に学習に取り組む態度①〕 ワークシート・観察・学習計画振り返りシート ・進んで、考えとそれを支える理由や事例、自分が考える自慢の給食献立を伝えるために、段落相互の関係に注意して文章の構成を考え、学習の見通しをもって、紹介する文章を書こうしているかの確認。</p>
情報の収集	2	<p>1 情報の収集 経験したこと、思ったことなどから題材に合った情報を付箋にメモをして集める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な情報を収集できているか自分で確かめられるように、次の観点を意識させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・目的 ・相手 ・自慢ポイント ○伝えたいことが明確になるように、集めた情報を項目ごとに分類させる。 	<p>※児童の取り組み内容に応じて評価し、指導や支援をする。</p> <p>〔知識・技能①〕 ワークシート・観察・学習計画振り返りシート （主に第2時） ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解しているかの確認。</p>
内容の検討		<p>2 内容の検討 (1) <u>確認・加除</u> 集めた内容について友達と伝え合い、不足している情報を追加したり、必要のない情報を整理したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○情報の過不足や正誤などの検討ができるように、観点を意識した交流をさせる。（読み手に自慢ポイントが伝わるかを考えさせる） 	
構成の検討		<p>(2) <u>分類・整理</u> 集めた情報の整理や分類をしながら、自慢したい献立について伝えたい事柄を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○情報の過不足や正誤などの検討ができるように、観点を意識した交流をさせる。（読み手に自慢ポイントが伝わるかを考えさせる） 	
3 本時		<p>3 選材 目的や相手・自分が伝えたい献立と選んだ理由を確かめ、伝えたい情報を選ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○伝えたいことが明確になるように、相手と目的、選んだ題材や集めた情報、まとまりに分けた経緯などを振り返って、確認させる。 	<p>〔思考・判断・表現①〕 ワークシート・観察・学習計画振り返りシート （主に第3時） ・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくって、文章の構成を考えているかの確認。</p>

<p style="text-align: center;">柔 軟 な</p>	<p>2 構成 中の部分の順序と、その構成のわけを考える。</p> <p>3 交流 中の部分の順序とその構成のわけを他児童と交流し、自分の考えの中心を明確にする。</p>	<p>○構成の意図を意識できるように交流の視点を確認させ、段落の順序とそのように構成したわけを伝え合うようにさせる。</p>	
	<p style="text-align: center;">学 習 過 程</p>	<p>4 1 記述 構成メモを基に、自慢の献立を紹介する文章を書く。</p> <p>5 2 推敲 文章を読み返し、読み手に伝わる表現で書けているか、文字表記に誤りがないか確かめる。</p>	<p>○読み返しの観点を確かめながら推敲できるように一覧表を用いて見直しをさせる。</p> <p>○読み返した児童は、進捗一覧で見付けた相手とペアで読み合って感想を伝えたり、必要に応じて修正したりさせる。</p>
<p>3 共有 友達と読み合って感想を伝え合い、自分の書いた文章のよいところを見付け、単元の学びを振り返る。</p>		<p>○自慢の給食を紹介する文章のよさを全体で確認し、共有の観点として示す。</p> <p>○観点に沿って、友達の書いた文章のよさを感想や意見として伝えたり、自分の書いた文章のよいところを見付けたりさせる。</p>	
<p>実 の 場</p>	<p>◆でき上がった紹介文を交流校へ送り、他校の児童に読んでもらう。</p> <p>◆単元で身に付けた力を活かし、廊下掲示板に給食紹介コーナーを設置する。</p> <p>※学級・学年・学校の実態や状況に応じて計画する。</p> <p>相手：学年内、他学年、保護者 など</p> <p>方法：掲示、製本、印刷配布、PDF のオンライン配信、発表 など</p>		

6 本時の学習 (3/5)

(1) 本時のねらい

内容のまとまりで段落をつくり、書く内容の中心を明確にして文章の構成を考える。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
<p>1 今までの学習を振り返り、本時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ココアあげパンの味や作り方の秘密が美味しさの理由だから、それを〇〇小の3年生に伝えたいな。 ・どういう順序で書くといいかな。 ・このまとまりで、味について伝わるかを他の友達にも聞いてみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゴールへの見通しがもてるように、書いて伝える目的と相手を確認めさせる。 ○前時までの学習を思い起こせるように、自分が集めた情報を見返させる。 	
<p>めあて つたえたいことをえらび、こう成を決めよう。</p>		
<p>2 全体で話し合いながら、学習活動へのイメージをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・味と作り方の秘密のどちらを先にすると読んだ人にはっきり伝わるかな。 <p>3 伝えたいことと結び付けて、内容のまとまりを意識して構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ココアあげパンの甘くてちょっぴりチョコの味がするところが1番伝わる順序で組み立てたいな。 ・食感と作り方の秘密は関係があるから、同じまとまりにしてみようかな。 <p>個人➡ペア (➡自由)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○児童と話し合いながら構成表例をつくり、ねらいを意識した学習活動への具体的なイメージをもたせる。 ○考えが浮かばない児童には、教師が提示した構成例を示し、自分の考えに合うものがないか考えさせる。 ○交流コーナーの設置や構成表例、題材表の掲示をして、児童に自分で解決方法を見付けさせる。また、他児童の構成表を自由に見学してもよいことを伝える。 ○段落を作る際の選材や、中の段落構成での順序のわけが明確になるように、交流の観点を意識させる。 ○座席表型支援簿で進捗状況を確認しながら支援する。 ○構成が決まった児童は、記述に進ませる。 	<div data-bbox="1086 949 1422 1211" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔思考・判断・表現①〕 構成表・観察・学習感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつかって文章構成を考えているかの確認。 </div>
<div data-bbox="164 1279 651 1637" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><交流の観点></p> <p>【その材料を選んだわけ】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①伝えたい中心の材料はどれかな。 ②このまとまりは、どうして1つにまとめたのかな。 <p>【中の部分の順序のわけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どうしてこの段落を1つ目にしたのかな。 </div>		<div data-bbox="1086 1234 1422 1525" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その献立を選んだわけと結び付けながら、内容のまとまりや事柄の順序を決めて構成を考えている。 </div>
<p>3 めあてを振り返り学習感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成で意識したところと理由 ・工夫して考えたこと ・次がんばりたいこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○書きたい中心を決めるときや構成のときに意識したり、工夫したりしたところや、友達の助言で気付いたことを書いている児童を取りあげて、全体に共有する。 	

ゴール

・できたこと
・分かったこと
・これから文章を書くとき……

読み返し・よい所見つけ

文章を書く

こう成を決める

情ほうをせい理する

情ほうを集める

じまんの給食を決める

学習かだい

- ・じまんの給食を決めよう。(これまでにあったことや感じたことを思い出して決める)
- ・情ほうをあつめよう。(朝学習・休み時間にインタビュー・写真・けいじ板)
- ・集めた情ほうを、せい理しよう。(同じ)〈ちがう〉で分けたり、結び付けたりする)
- ・つたえたいことをえらび、こう成を決めよう。(組み立てを考える)

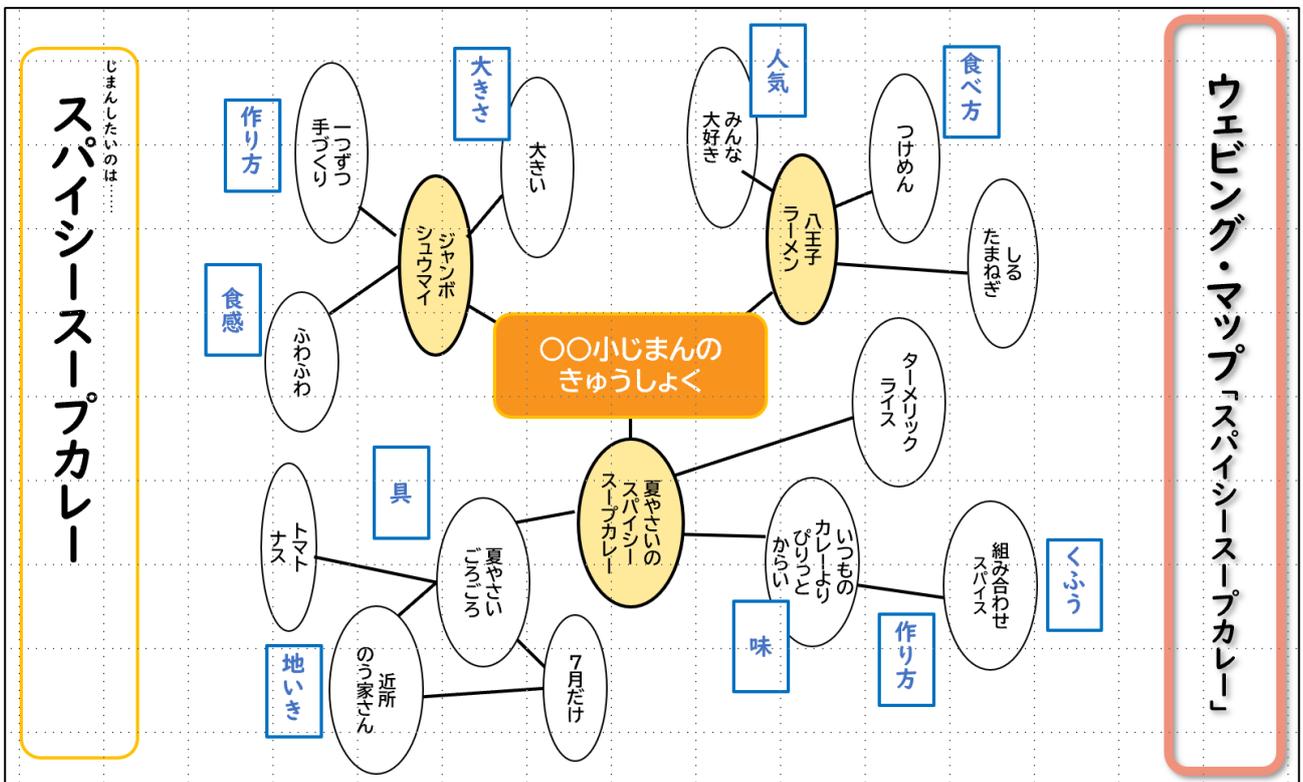
学習計画・ふり返りシート

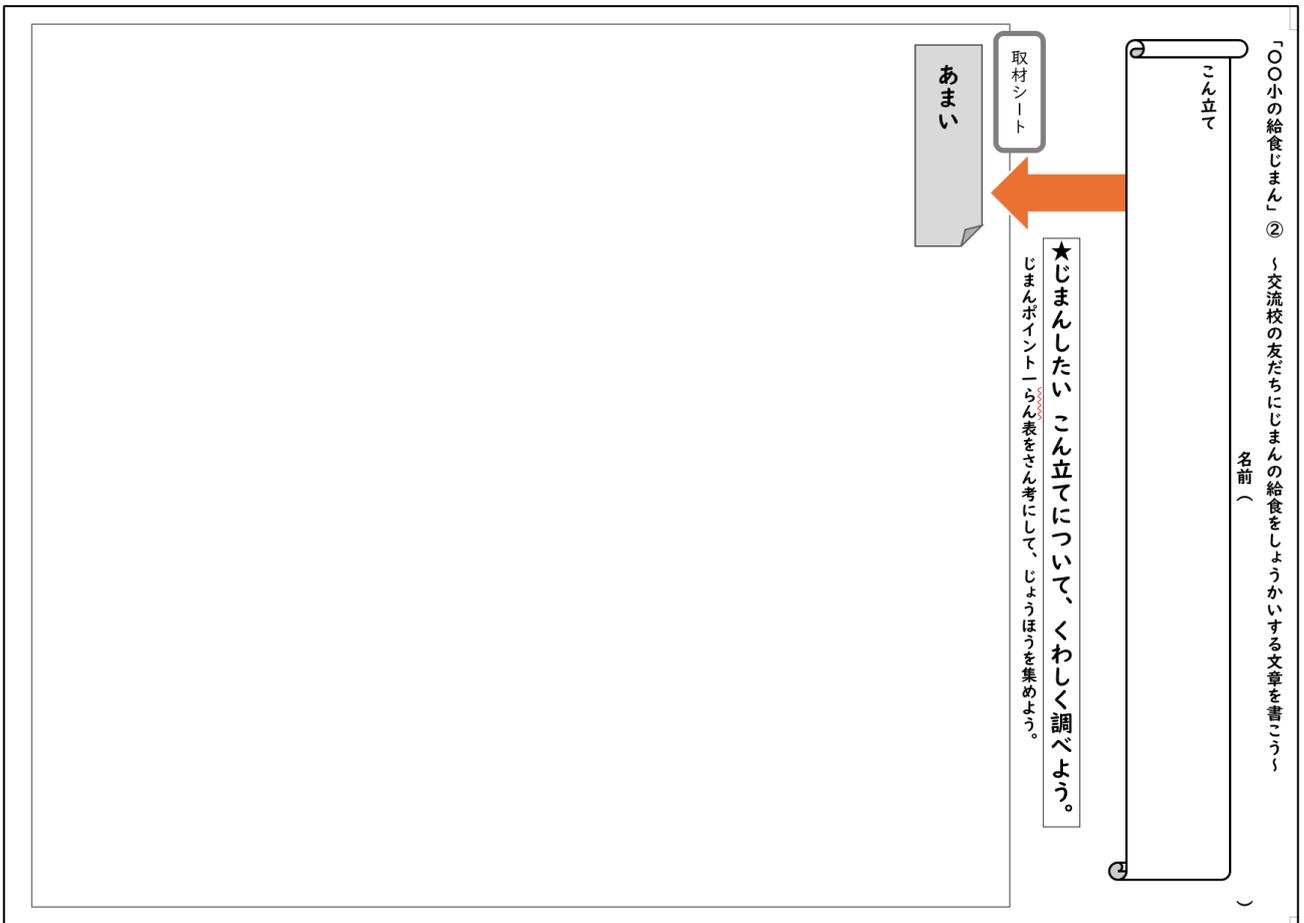
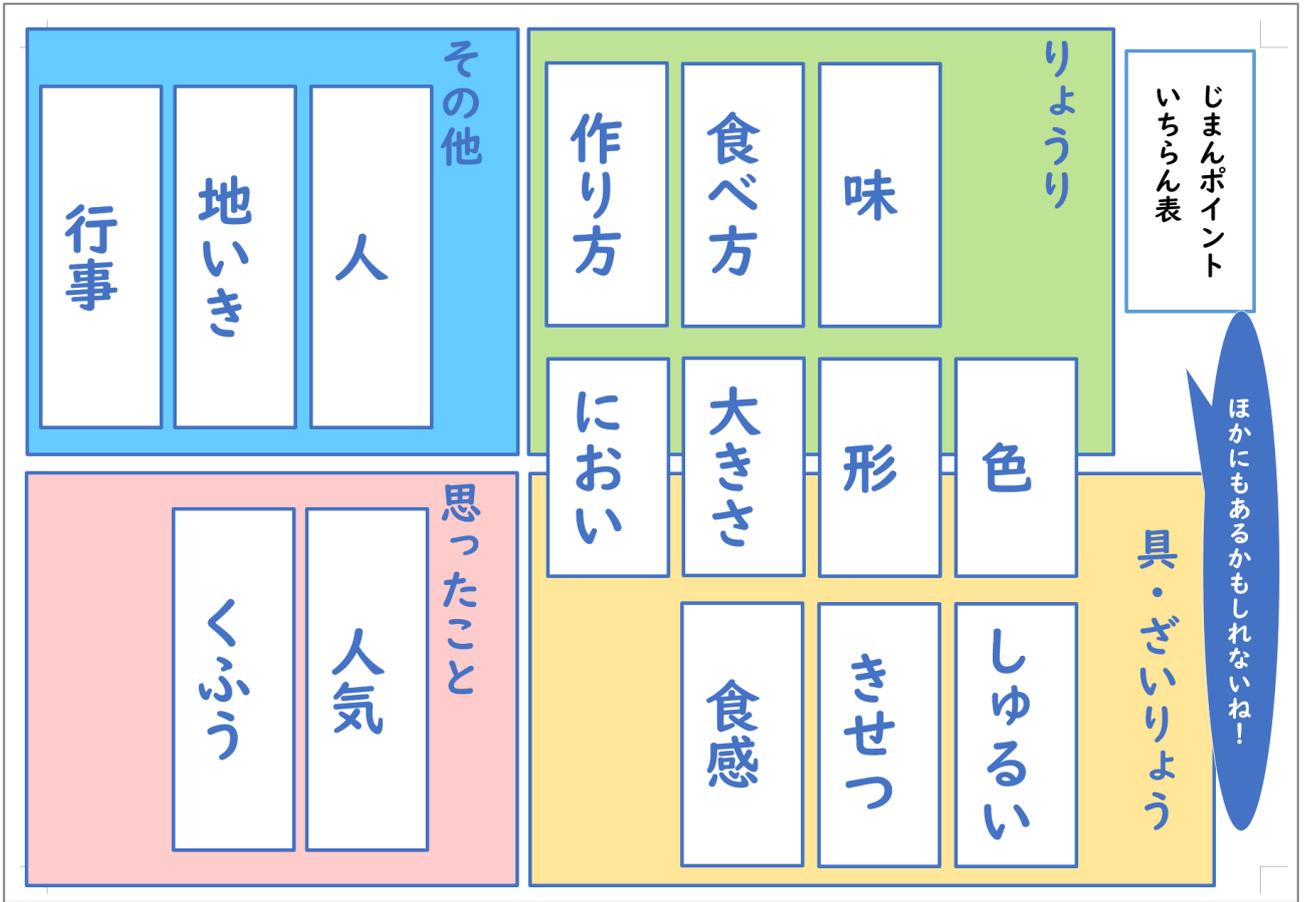
組 番号前

	五	四	三	二	一	取材	-
	めあて	めあて	めあて	めあて	めあて	見たり、聞いたり、感じたりしたことなどから、情ほうを集めよう。	めあて

ゴール

自まんの給食を紹介する文章で自分や学校のことを知ってもらって、交流校となかよくなるよう。





「〇〇小の給食じまん」③ 交流校の友だちにじまんの給食をしようかいする文章を書こう！

名前（ ）

こん立て

★じょうほうを整理しよう。

小見出し

小見出し

小見出し

小見出し

「〇〇小の給食じまん」④ 交流校の友だちにじまんの給食をしようかいする文章を書こう！

★つたえたいことをえらび、こう成しよう。名前（ ）

こん立て

じょうほうをこん立て

何じゆんか

小見出し

中1

小見出し

中2

中ほか

ほかにコーナー(ななへてまふじ)

まだあ

呼びかけ

中をこのじゆんじよにしたわけ

終わり